

## 令和3年度第1回役員会会議報告

日 時：令和3年5月18日（火）13時30分～16時00分

開催方法：オンライン（Zoom）を活用しての開催

出席者：21名

○役員（11名）

大平会長、宮田副会長、早川副会長、吹屋理事、柳楽理事、今部理事、山田理事、石尾理事、定兼理事、福嶋理事、栗原監事

○随行（6名）

山口県文書館2名、鳥取県立公文書館2名、神奈川県立公文書館1名、徳島県立文書館1名

○事務局（4名）

### 1. 報告

(1) 第24期（令和3・4年度）役員・委員について

会長事務局より報告後、役員各自自己紹介。

(2) 令和2年度第2回役員会会議報告について

会長事務局より報告。全史料協ウェブサイトに掲載済み。

(3) 会員数の現況及び令和2年度会費納入状況報告について

会長事務局より報告。

- ・令和3年3月31日時点で、機関会員139機関、個人会員254名、合計393会員
- ・前年度末の会員数と比較して、機関会員が3機関増（入会5機関、退会2機関）、個人会員が34名減（入会4名、退会38名）で全体では31会員の減である。  
個人会員退会者38名のうち24名は2年以上の回避滞納による除籍。
- ・令和2年度末の会費納入状況は、納入件数340、未納件数32である。（会費納入義務基準日は、令和2年度第1回役員会時）

(4) 地域別協議会活動報告について

○関東部会

- ・令和2年5月27日に開催を予定していた総会および総会記念講演会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。
- ・定例研究会第306回は令和2年12月10日にZoomを用いて開催。同307回は近畿部会との共催で令和3年3月18日にZoomを用いて開催した。

- ・『アーキビスト』第 94 号を令和 2 年 9 月に刊行、同第 95 号を令和 3 年 3 月に刊行した。
- ・令和 3 年 4 月 1 日現在の会員数は、機関会員 50 機関、個人会員 103 名、前年比 14 会員の減である。
- ・会則の一部改正をおこない、退会規定を設けた。

#### ○近畿部会

- ・総会は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止した。第 1 回役員会はメールで実施。第 2 回役員会は今月 26 日に Zoom で開催予定。
- ・研究例会は合計 6 回の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止が続き、1 回のみ令和 3 年 3 月 18 日に関東部会と合同で Zoom を利用してオンライン開催したのが唯一であった。
- ・令和 3 年 3 月 31 日現在の会員数は、機関会員 15 機関（1 増）、個人会員 58 名（10 減 内除名 7）、通信会員 9 名である。  
(質疑・意見等)
- ・関東部会の会員数減は、会費未納者を除籍したのが主な理由か。  
→そのとおり。
- ・役員・委員名簿で委員会に副委員長を定めてない委員会があるがなぜか。  
→今年度第 1 回委員会をまだ開いていないので未定である。
- ・令和 2 年度第 2 回役員会会議報告にあるアーカイブズ関連協議会は開催されたのか。開催されたのであれば、その内容は。  
→令和 2 年 2 月 26 日に 8 機関 16 名が出席して開催された。

## 2. 協 議

### (1) 令和 2 年度事業結果報告

令和 2 年度事業結果報告について各事務局から報告。

#### ○会長事務局

- ・総会は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止した。
- ・役員会は、第 1 回は書面会議で実施、第 2 回は Zoom を使った Web 会議で開催。
- ・会員に係る事務は事務支局を通じて実施。
- ・令和 3 年 2 月 26 日アーカイブ関係機関協議会に出席した。

#### ○副会長事務局

- ・国際会議、セミナー等の会員への広報
- ・国際団体への負担金送付
- ・その他国際交流事務を行った。

#### ○大会・研修委員会

- ・第1回、第2回委員会は中止。第3回は秋田で開催。第4回はWEB会議で開催。
- ・全国（仙台）大会は中止。

#### ○調査・研究委員会

- ・委員会は4回開催。内2回はメールでのやり取りによる会議とした。
- ・公文書館機能普及セミナーを11月19日に鳥取で開催。
- ・調査事業として新型コロナウイルス感染症対策に関する機関会員へのアンケート、四国基礎自治体の公文書保存に関するアンケート及び実地調査を実施。
- ・5件の催事に後援承認を行った。
- ・10の災害に対して機関会員への安否確認を行った。

#### ○広報・広聴委員会

- ・3回の委員会はいずれも中止。
- ・会誌1回、会報2回の編集と発行を行った。
- ・ホームページの維持管理を実施。更新回数60回。  
(質疑・意見等)
- ・令和4年度の大会開催地の調整はどうなっているか。
- ・令和2年度の仙台大会は中止になったが、開催準備していたことは、またいつか実施するか、何らか生かせる方向で検討されるとよい。
- 令和4年度開催地について候補地等調整中と聞いているが、具体的にはこれからである。
- ・大会・研修委員会の議事録では滋賀県の名前が挙がっているようだが、どうなっているのか。
- 会長事務局としては具体的な調整は行っていない。候補地として挙がっていることは聞いているので、今後調整していきたい。
- ・会長の東京都や改築移転した北海道も今後の開催地として考えていいのではないか。

※(1) 令和2年度事業結果報告は異議なく承認された。

#### (2) 令和2年度事業決算報告

会長事務局から令和2年度事業決算報告がなされた。

・大会・研修委員会が全国大会中止により会議費の旅費が約160万円、事務局事務費の旅費が21万円の執行残となっている。調査・研究委員会でも旅費を中心に全体で106万円の執行残となっている。広報・広聴委員会も旅費を中心に全体で約53万円の執行残となっている。会長事務局は総会を中止したので旅費で148万円の執行残、事務局事務費で普及セミナーの動画撮影、高崎倉庫の資料整理等に旅費から流用して対応した。副会長事務局も旅費を中心に約15万円の執行残となっている。収支決算は、総収入額9,548,760円、総支出額3,608,574円、残額5,940,186円が繰り越し。特別会計については積立額、取崩額ともなし。

・補足 大会・研修委員会の事業費で使用料及び賃借料として 322,340 円の支出があるが、これは令和 3 年度大会の会場利用料金で施設の規定により前年度までに支払わないといけないことになっており計上した。

### (3) 令和 2 年度監査報告

栗原監事から会務及び会計は適正に執行されていることが報告された。

(質疑・意見等)

・繰り越しの多いことについて、特別会計に積み立て将来に備えるとか、災害に備えて活かそうとかの考えを役員で協議しておいたほうがよいのではないか。

→令和 3 年度予算案で特別会計に 100 万円を積立する考えでいる。

※ (2) 令和 2 年度決算報告及び (3) 令和 2 年度監査報告は異議なく承認された。

### (4) 令和 3 年度事業計画 (案) 及び (5) 令和 3 年度予算(案)について

各事務局・委員会より令和 3 年度事業計画 (案) 及び予算 (案) の説明が行われた。

#### ○会長事務局

- ・総会は 6 月にオンライン方式で開催を予定
- ・役員会は、第 2 回を 2 月ごろに開催する予定
- ・会員に係る事務として会員管理を実施
- ・次期役員体制、令和 4 年度・5 年度全国大会開催地の調整等を行う。
- ・予算案では、事務局事務費として Zoom の契約等で前年度比約 27 万円増となっている。

#### ○副会長事務局

- ・国際会議・セミナー等の会員への広報、国際団体への負担金送付、その他国際交流事務及び会長事務局の補佐等を行う。
- ・予算案は記載のとおり。

#### ○大会・研修委員会

- ・第 1 回委員会は 5/10 に Web 会議で開催。このあとコロナの関係でどうなるかわからないが、第 2～4 回を開催する予定。
- ・全国 (高知) 大会は予定どおり 11/17～18 に開催する予定。昨年度は研修・研究大会を実施できなかったもので、今年はぜひ高知で開催したい。委員会では安全に確実に開催するためにリモートのみで開催することで準備していく。
- ・予算案は、大会をリモートのみで開催することで事業費の使用料及び賃借料支出をゼロとし、代わりにリモート開催の技術サポート委託費を計上している。

#### ○調査・研究委員会

- ・第 1 回委員会を 5 月に開催予定で、事業計画の具体はまだ議論していないが、例年どおりの事業建てで計画している。委員会は 4 回開催予定。公文書館機能普及セミナーの開催、調査・研究事業、大規模災害発生時における情報窓口、後援承認等を予定している。

・予算は、例年並みで立てている。

#### ○広報・広聴委員会

・第1回委員会を来週5/28にオンラインで開催予定。以降二回開催予定。会誌と会報の発行は例年どおり会誌を1号、会報を2号発行予定。ホームページの維持管理その他記載のとおり。

・予算案では、事務局事務費で旅費及び通信運搬費をゼロとしているのは、役員の行程がないということからである。

#### (質疑・意見等)

・次期役員体制いろんなところに網を掛けてください。大会開催地も4年度5年度はあるが、さらにできることなら6年度7年度も手を挙げていただけたところがあればやればよいのではないか。早くに決まれば準備する方もよいのではないか。

・全史料協の会員が400人を切った。会員獲得についてどうするか。会員を獲得するための手立てを何か検討してほしい。

・機関会員は会費としての予算取りが厳しくてやめていくということを今まで何べんも聞いてきた。一方で図書費の類なら比較的裁量があるのでという話もあった。例えば会誌を10部買うと会誌会員みたいなかたちで大会参加資格、総会参加資格ありとするなどどうか。会員になった時のメリットの問題、鳥取でのセミナーはオンラインで会員向けに配信だった。全史料協でコンテンツをイベントのたびにつくり、会員になったら職員向け研修にこういう動画を使ったらいいですよというようなやり方をするのもありなのではないか。

・全国(高知)大会はオンライン開催の予定となっているが、会場費を前払いしているのはどうなるか。

→現時点でキャンセルすれば全額返金される。

・調査研究活動で昨年度は四国の基礎的自治体の調査をしたが、調査研究の継続性を踏まえて行ってほしい。

→ご意見を踏まえて委員会で議論していきたい。

・会誌編集で昨年度開催できなかった仙台大会の準備の成果を何らか活かして行ってほしい。

→広報・広聴委員会で検討していく。

→大会・研修委員会でも仙台大会を近い将来にもう一度設定してもいいのではないかと話が出ている。

※(4)令和3年年度事業計画(案)及び(5)令和3年度予算(案)は異議なく承認された。

#### (6) 令和3年度の表彰について

会長事務局から表彰について以下のとおり提案があった。

・平成31年2月に表彰規程を改正して功労賞、奨励賞、感謝状の3種を規定して今年度秋の高知大会での表彰式挙行を目指していたが、大会をオンライン方式で開催するとい

うことで表彰式を開催できない見込みから、お祝い事でもあるので今年度については表彰を見送って次年度以降一堂に会する機会に行ってはいかがか。功労賞については長年会務に従事した方ということで候補者をリストアップしているが多数にわたるので、被表彰者の要件をさらに検討して役員会ではかって来年度以降の表彰実施につなげていきたい。奨励賞については、直近の業績に基づく自薦他薦によるもので総会案内にあわせて制度の周知と募集をしていきたい。推薦があった場合は、個人会員の役員に一次審査をお願いしたのちに役員会での審査で決定していきたい。

(質疑・意見等)

・奨励賞の審査過程は、あまり細かく決めずとも役員会の審査で決めるということではよいのではないか。

→規約と内規に基づいて役員会で決めるということ運用していくことにしたい。

※ (6) 令和3年度の表彰については、異議なく承認された。

(7) 令和3年度総会の開催方式について

会長事務局から総会の開催方式及び日程について以下のとおり提案があった。

・対面式及びオンライン形式のメリット、デメリットを勘案して現在の状況では、オンライン形式での開催とすることと日程は6月8日(火)とすることを提案したい。

(質疑・意見等)

・大会もオンライン形式で開催予定であり、多くの方に参加してもらえる方法について参考としたいので総会のオンライン開催を求める。

・会則変更なしでオンライン開催とするという前提で、総会開催の定足数の定めはないので、オンライン参加者の過半数の賛成で議事は承認されるという認識でよいか。

→そのように考えている。

・オンライン開催では懇親会とかできないのが残念だが、総会終了後にオンライン上で、参加者同士が意見交換したりする小部屋を設けて参加してもらえるような工夫をしてみたらどうか。

→今回の総会において今からその準備をするのは、無理である。しかし別途そのような機会を持てるようにすることは考えていきたい。

※ (7) 令和3年度総会の開催方式について異議なく承認された。

### 3. その他

大会・研修委員会から

・大会会場費返金について、施設の規定では150日前なら7割返金だが、コロナ禍の現在の情勢で、今すぐキャンセル手続きすれば全額返金されるということなので総会での決定を待たずに手続きしたい。

→無駄な費用を発生させないためにもすぐ手続きしてよいのではないか。万一総会でひっ

くり返るようなことがあれば、あらためて施設予約をすればよいだろう。

会長事務局から

・令和 2 年度総会報告概要については、会則の規定に従い令和 3 年度総会の中で改めて報告する。

・先日亡くなられた元 ICA 事務総長・事務局長のチャールズ・ケスケメティ博士の追悼文を全史料協として会誌会報等に掲載してはいかがか。

→博士が来日時全史料協での講演会等も当時担当されていた前参与の小川千代子さんに追悼文を依頼するのがよいと思う。

→広報・広聴委員会で依頼する。

その他

・全史料協の活動について SNS を活用して発信を広げていくようにしていくとよい。

以上